

おかあさんコーラス全国大会へ

●秋田音楽研究会合唱団



▲津谷市長に全日本おかあさんコーラス全国大会への出場を報告する三澤代表

秋田音楽研究会合唱団（メンバー17人）の三澤由美子代表が、6月14日、市役所を訪れ、津谷市長に、第35回全日本おかあさんコーラス全国大会への出場を報告しました。

同合唱団は、6月10日に岩手県民会館で開催された同大会の東北支部大会に出場し、42団体の中から上位6団体に入り、3度目の挑戦で見事全国への切符を手に入れました。

三澤代表は「団員一丸で全国大会を目指し、ハードな練習にも耐えがんばってくれたおかげ。全国大会でも上位を目指したい」と抱負を述べました。

全国大会は、88団体が出場して8月24日から26日まで、東京の文京シビックホールで開催されます。

集落のパワーを結集

●根子番楽まつり



▲約150人の参加者が、根子番楽、郷土料理、マタギ語り、集落散策などを楽しんだ

根子番楽まつり（実行委員長 佐藤哲也根子自治会長）が6月10日、阿仁根子集落で開かれ、市内外から訪れた約150人の参加者が根子番楽や郷土料理などを堪能しました。

このまつりは、自治会と実行委員会を中心となり企画や運営を行い、今回が2回目の開催です。

この日、訪れた人たちは入村手形を購入し、国指定重要無形民俗文化財の『根子番楽』やマタギとの語らい、昔遊び体験、集落内散策などの盛り沢山のイベントに参加。昼食では、集落のお母さんたちが作る郷土料理が振る舞われ、地元伝統のナッツや煮染め、白あえなどを、一品一品じっくり味わいながら、田舎料理を楽しみました。

林業の発展に寄与

●高関英男さん功労者表彰



▲津谷市長に功労者表彰の喜びを語る高関英男さん

秋田県森と水の協会（津谷永光会長）の治山・林道・公有林事業功労者として表彰された高関英男さん（68歳）阿仁幸屋渡Ⅱが6月11日、市役所を訪れ、津谷市長に受賞を報告しました。

高関さんは、旧阿仁町職員として通算7年間林業行政に携わり、農林課長を歴任。また、平成18年から阿仁林業研究会会長を務められています。菅生地区では、リーダーシップを発揮しながら治山事業を9年間継続して導入し、地権者の同意をまとめ上げるなど、路網整備計画の推進に寄与されました。

高関さんは「林業4団体が統合して初めての表彰をいただいたことに感謝したい」と述べました。

車窓からの眺めが楽しみ

●田んぼアート制作



▲米内沢根小屋地区で田んぼアートづくりに挑戦する参加者

5月26日・27日の2日間、田んぼアート制作の田植え作業が市内3箇所で行われ、地域住民など多くのボランティアが参加しました。

田んぼアートは、田んぼに赤、黄、緑、紫色などの品種の稲を使い、絵や文字を浮かせたりするもの。作業を通して、地域住民のつながりを育むとともに、観光客が訪れたいくなる景観をつくり、秋田内陸線の集客力アップを図ろうと北秋田地域振興局が企画しました。

作業が行われたのは米内沢根小屋、小又平里、阿仁小淵地区で、「あきた美人ライン」などの文字を制作しました。3箇所は内陸線の車窓から観ることができ、見頃は7月から8月の予定です。

ふるさとに思いを馳せて

●第26回東京圏あに会総会



▲ふるさと阿仁の話で盛り上がった、東京圏あに会懇親会

第26回東京圏あに会（佐藤正成会長）の総会・懇親会が6月3日、東京都東上野で開催され、会員や阿仁地区からの参加者など約130人が集い、阿仁を懐かしむ話で盛り上がりました。

懇親会では、馬肉の煮付けや山菜漬け物などふるさとの味を堪能しながら、互いの再会を喜び合い、故郷談義に花を咲かせていました。

また、森吉山阿仁スキー場や秋田内陸線支援活動の紹介、市の観光PRなどが行われました。会場内に設けられた特産品販売コーナーには、阿仁から直送された採れたてのミズやシドケ、アイコ等が並べられ、会員らはふるさとに思いを馳せながら買い求めていました。

ブナ林の新緑を浴びて

●竜ヶ森合同山開き



▲新緑のブナ林のなかを歩き、山頂を目指す参加者

北秋田市と大館市にまたがる竜ヶ森（1049.8m）の両市合同山開きが6月1日に行われ、山頂で今シーズンの安全を祈願しました。

合同山開きは昭和63年から始まり、両市が交互に主催し毎年6月1日に行われています。

今年は、北秋田市側の東ノ又コースに至る林道の路肩決壊でバスの通行が制限されたため、大館市側の比内コースから一緒に山頂を目指しました。

竜ヶ森は、山頂部周辺がブナの美林で覆われ、新緑、紅葉が美しい山。この日は、好天に恵まれ絶好の登山日和。両市や県内の登山愛好者など約150人が参加し、ブナの新緑が映える竜ヶ森の魅力を満喫しました。